

『経済小学 家政要旨』とその原典との比較研究

尚綱短大 ○谷口彩子 東京家政学院大家政 亀高京子

(目的) 明治初期における翻訳家政書は、わが国の家政教育、家政学に多大の影響を及ぼしたと考えられており、なかでも今回取り上げた『経済小学 家政要旨』は、もっとも普及したとみられている。しかし、原典が不明とされてきたため、その訳出過程、原書のどの部分を抄録・適訳したか、また意識部分の意図などについては不明な点が多かった。本研究は、同書とその原典との比較を中心に、明治初期におけるアメリカ家政思想の受容過程に関する考察を深めることを目的としている。

(方法) 比較にあたって、資料として、ハスケル原著、永峯秀樹抄訳『経済小学 家政要旨』(明治9年刊)、その原典資料として、E. F. Haskell : The Housekeeper's Encyclopedia, D. Appleton & co., (1872) (イリノイ大学所蔵) を用いた。

(結果) 『主婦百科』とでも訳される原書は、当時のアメリカ人主婦に必要とされた家庭生活全般に関する知識について執筆されたもので、総ページ数 445ページに及ぶ。原書の内容を領域別にみると、領域は多方面にわたっているが、食生活(調理法)に関する内容が6割以上を占めている。しかし、全体の訳出率は1割程度の約40ページであり、領域による訳出率の差がみられた。こうした訳出率の違いは、翻訳者永峯秀樹の翻訳の意図とあわせて、当時の日米における家庭生活文化の違いが反映されているものと思われる。